

令和4年度 御殿場市議会総務委員会 行政視察報告書

1 視察日程

令和4年7月19日（火）から令和4年7月20日（水）まで

2 視察先及び視察事項

(1) 石川県小松市（7月19日）

『自主防災組織ランクアップの取り組み』について

(2) 石川県小松市（7月19日）

『PFI方式による市営住宅の建て替え』について

(3) 石川県小松市（7月20日）

『空とこども絵本館』について

3 参加者

委員長 中島宏明

副委員長 勝間田博文

委員 高橋靖銘

菅沼芳徳

事務局 渡邊一二司

芹沢修治

高木理文

（議会事務局主任）

4 視察内容

■石川県小松市

(1) 『自主防災組織ランクアップの取り組み』について

視察対応者 石川県小松市 危機管理課 中谷 専門官

① 目的

安心・安全の街を目指す為、小松市における自主防災組織の現状・取り組み及び今後の方向性を確認し、当市の自主防災組織の充実に資する。自主防災組織の充実に資する。

特に組織のランクアップ取り組みについて良好な点及び改善を要する点を把握し、危機管理の充実を図る。

② 内容

・自主防災組織の発足

阪神淡路大震災を契機に平成22年12月に設立（市内245町内に100%設置）

・ランクアップ導入の背景

防災訓練ステップアップマニュアルを作成。訓練計画における準備・企画（Plan）、実施（Do）、点検評価（Check）、改善（Action）PDCAサイクルにより、防災力の向上を図る。

また、マンネリ化を防止することを目的に人材育成、組織の充実度、防災の取り組み、訓練関係を主とした35項目について1年間評価し、取得点数により5段階にて評価

・その他

地域防災リーダーの育成（女性の比率3割）、しみん救護員の養成（女性325名）、災害時要支援者マップの作成、宿泊費補助等

③ 考察

・自主防災会の現状

発足の経緯はそれぞれあるが、約3年で100%（245町内設置）の達成は、市民の意識の高さはもちろん、当局の強い意志及び実行力が確認できた。

・自主防災組織のランクアップ

各地区の意識及びスキルの差を無くすべく、防災訓練ステップアップマニュアルを作成するとともに評価制度を採用入れ、マンネリ化を防ぎ防災力の均一化が図られていることを確認した。評価制度の受け入れに関しては、やや抵抗もあったと伺うも、相対評価ではなく、各項目の到達度を評価する絶対評価とし、「地域防災力の向上」を目的として、保有能力向上に努めていた。

※危機管理課へ報告



(2) 『PFI方式による市営住宅の建て替え』について

視察対応者 石川県小松市 建築住宅課 紺谷 課長

① 目的

老朽化した市営住宅の建て替えを背景とし視点を換え、移住・定住の観点から、PFI方式に至った経緯を確認し、事業のメリット・デメリットを確認するとともに、当市に取り入れられる要素を確認し、併せて人口減少の一助とする。

② 内容

・地域コミュニティの活性化

小松市では、老朽化した市営住宅の建て替えに伴い、若者や子育て世帯が移住・定住する新たな生活拠点を創出するため、子育て世帯・新婚世帯に限定した中堅所得者向けの地域優良賃貸住宅へと移行させた。

・PFI方式により整備

事業方式は、民間の資金力、技術力、ノウハウ等を活用し、一括して余剰地全体を含め整備することで、市の財政・職員の事務的負担の軽減を図るためPFI事業方式を採用。

老朽化した104戸の既存市営住宅を解体し、新たに新設住宅を整備した後、市に所有権を移転するBT方式を採用し、PFIにて選定された企業が余剰地を市より購入し、分譲地の整備・販売、道路整備を実施。

③ 考 察

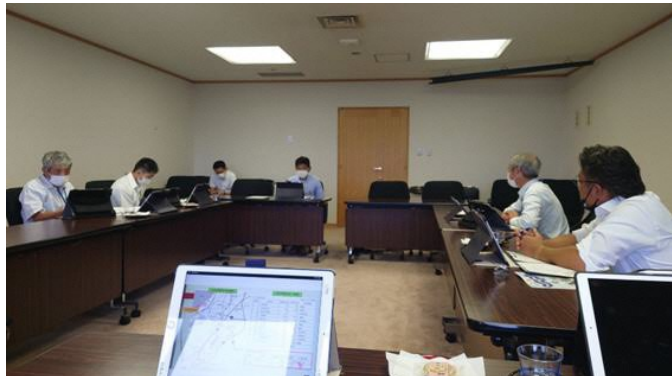
・視点の変換（若い世代の移住・定住）

住宅困窮者向けの市営住宅とせず、中堅所得者をターゲットとして移住・定住を促し、子育て世代へ特化した入居基準を設定し、子育てしやすい環境を整えた。

・老朽化した市営住宅整備と移住・定住の取り組み

本市においても老朽化市営住宅の建て替えは課題であり、小松市の市営住宅の整備にB T方式によるP F I事業の取り入れは、行政（財政）のリスクも少なく住宅整備ができ、移住・定住子育て支援などにも寄与できる。

当市においても市営住宅整備に関する事業の一つとして様々な諸課題はあるが、管計画書と協議しながら、新たな政策として検討すべき事業の一つと思料する。



※未来プロジェクト課及び建築住宅課へ報告

(2) 『空と子ども絵本館』について

視察対応者 石川県小松市 空とこども絵本館 尾木沢 館長

① 目 的

既存の歴史的建築物（空き店舗）を活用（リノベーション）し、市民と一体となり立ち上げた「空とこども絵本館」の立ち上げの背景・経緯及び現状を把握し、当市の空き店舗等の活用を見出すとともに新図書館の参考とする。

② 内 容

・「絵本館」(旧建築物の活用)

旧小松警察署を活用し、外観及び望楼を保存。内部で新築した部分は、再利用できるものはなるべく再利用し、当時のデザインを継承しつつ機能的かつ現代風にアレンジされていた。

また、絵本館ホールにおいては旧石川商銀信用組合小松支店を活用し、漆喰装飾、カウンター、金庫、螺旋階段など、当時の趣きを保存しそのまま活用され、ミニコンサートや朗読会、特集展示として有効活用し、2階暖炉の部屋等は会議室として貸出利用可能となっていた。

・「絵本館」事業

絵本館の理念は、①0歳からの絵本との出会いを推進 ②子どもたちの豊かな心と言葉を育む ③子どもたちの想像力や感受性を家族の絆を通して育む。とし開設当初からボランティアの力が結集した事業が継続されていた

③ 考 察

・「旧建築物の活用」(空き店舗の活用)

小松市は、市民の意識を含め歴史的建造物の保存と再利用に力点を置いていることから、新旧融合の街並みの景観となっており、城下町としての風情も見受けられる。

御殿場市も老朽化した公共施設を多く抱えており、建て替えの計画もあるが、計画の前に再生、有効活用できるかの検討も必要と考える。

※企画部へ報告



・その他

現在小松市は、「みんなで作る未来図書館」構想にむけ準備中であるが、「空とこども絵本館」は新図書館と連携しつつ現在のコンセプト・体制を存続していくとの事。